

## ◎ 事業別財務諸表を活用した評価

### ① 竹芝客船ターミナル

- 竹芝客船ターミナルは、平成3年12月にオープンし、伊豆・小笠原諸島への玄関口として、またレストラン船などの発着場として利用されています。

#### ◀ 平成23年度財務諸表 ▶

##### 貸借対照表

<b>資 産</b> 185.8 億円	<b>負 債</b> 78.0 億円
うち有形固定資産 47.4 億円 うちインフラ資産 136.8 億円	うち都債 77.6 億円
〔うち土地 78.8 億円〕 〔うち建物 47.3 億円〕 〔うち工作物 10.7 億円〕	<b>正味財産</b> 107.8 億円

##### 行政コスト計算書

行政収支の部 <b>行政収入</b> 1.2 億円
<b>行政費用</b> 6.2 億円
〔うち物件費 2.3 億円〕 〔うち維持補修費 1.2 億円〕 〔うち減価償却費 2.4 億円〕

- ・ 竹芝客船ターミナル総資産のうち、インフラ資産（都市活動に不可欠で性質上売却することが著しく困難な資産）が約7割を占めています。

#### ◀ 財務諸表から読み取れる課題 ▶

##### 資産分析 ▶ インフラ資産の維持

- ・ 竹芝客船ターミナルの建物老朽化率は52.6%であり、都の建物平均（43.2%）を上回っています。これまで維持更新計画に基づいた施設改修を行ってきましたが、今後も計画的な改修などを図っていく必要があります。

##### 単位当たり分析 ▶ 指定管理者による運営

- ・ 現在、本ターミナルの運営は、指定管理者である東京港埠頭株式会社及び株式会社東京テレポートセンターが行っています。本ターミナルにおける平成23年度の乗降客数は101.6万人（22年度比1.2万人増加）で、乗降客1人当たりのコストは610円となっており、今後も乗降客数の増加、収入の確保やコスト削減に向けた取組が求められます。

#### ◀ 平成25年度予算における課題への対応 ▶

##### ○ 海の交通拠点としての施設整備

###### ◇ 要冷蔵食品輸送用コンセントの増設（0.5億円）

- ・ 平成25年度は、要冷蔵食品輸送などに必要な専用電源口数を増設することにより、施設使用料などの収入の拡大を図ります。

## ② 都立図書館

- 都立図書館（中央・多摩）は、国際都市東京の広域的・総合的情報拠点として、東京の社会、教育、文化などの発展に貢献しています。

### 《 平成23年度財務諸表 》

#### 貸借対照表

<b>資 産</b> 28.7 億円	<b>負 債</b> 25.2 億円
うち有形固定資産 28.0 億円	都債 15.9 億円
うち無形固定資産 0.3 億円	退職給与引当金 9.4 億円
うち重要物品 0.4 億円	<b>正味財産</b> 3.5 億円

#### 行政コスト計算書

行政収支の部	
<b>行政収入</b> 0.5 億円	
<b>行政費用</b> 22.3 億円	
〔うち人件費 8.9 億円〕	
うち物件費 11.2 億円	
〔うち維持補修費 0.8 億円〕	

- ・ 資産のうち、無形固定資産としては自館作成出版物の著作権を、また、重要物品としては中世ヨーロッパの手稿本の精密な複製本などを保有しています。

### 《 財務諸表から読み取れる課題 》

#### 資産分析 建物の維持と図書収蔵力の確保

- ・ 建物老朽化率は61.3%であり、都の建物平均（43.2%）を上回っています。また、2館合計の図書収蔵能力（311万冊）に対して、平成23年度末時点の蔵書数が300万冊に達しており、図書収蔵力の拡大が急務となっています。

#### 単位当たり分析 業務委託の活用

- ・ 大規模な図書館業務を効率的に運営していくために、レファレンスサービスなどの基幹業務については専門性を持った司書が担い、資料出納などの委託が可能な業務については業務委託化を進めています。資料整理に係る経費から算出した蔵書（図書）1冊当たりのコストは287円で、今後もより低コストで質の高いサービスが求められます。

### 《 平成25年度予算における課題への対応 》

#### ○ 図書収蔵力の確保

- ◇ 多摩図書館の移転改築に伴う経費（1.1億円）
  - ・ 多摩図書館の移転改築により、図書収蔵力の拡大を図ります。

#### ○ 運営の効率化の推進

- ◇ 都立図書館の管理運営（12.1億円）
  - ・ これまで進めてきた図書館業務の委託化に加え、平成25年1月から中央図書館で開始した電力の複数契約などにより、運営の更なる効率化を図ります。

### ③ 都営住宅

- 都営住宅は、最低居住水準の住宅の確保が困難な低所得者に対して賃貸する住宅で、257,706戸（平成23年度末時点）を管理しています。

#### 《 平成23年度財務諸表 》

##### 貸借対照表

<b>資 産</b> 2兆3,293億円	<b>負 債</b> 6,198億円
流動資産 395億円	うち都債 6,131億円
固定資産 2兆2,898億円 〔うち土地 7,346億円〕 〔うち建物 1兆3,761億円〕	<b>正味財産</b> 1兆7,095億円

##### 行政コスト計算書

行政収支の部
<b>行政収入</b> 793億円 〔うち使用料及手数料 671億円〕
<b>行政費用</b> 996億円 〔うち維持補修費 312億円〕 〔うち投資的経費 86億円〕 〔うち減価償却費 419億円〕

- ・ 都債の着実な償還によって負債が減少し、総資産に占める負債総額の割合が26.6%に改善するなど、2兆円を超える資産について財務の健全化が図られています。

#### 《 財務諸表から読み取れる課題 》

##### 資産分析 都営住宅の資産の維持

- ・ 平成23年度は、旧耐震基準の住宅の建替えなどを進めた結果、建物の老朽化率が41.3%となり、都の建物平均（43.2%）とほぼ同水準を維持しています。今後も、計画的な建替えや改修などによる建物資産の維持が求められます。

##### 単位当たり分析 改修工事の推進

- ・ 老朽化した建物の外壁補修などを行った結果、平成23年度の一戸当たりコストは38.6万円で、22年度に比べて0.9万円増加しています。今後も修繕費用の増加が見込まれることから、修繕コストの低減が求められます。

#### 《 平成25年度予算における課題への対応 》

##### ○ 耐震化の着実な推進

###### ◇ 都営住宅耐震改修事業（120億円）

- ・ 平成24年7月に改定した「都営住宅耐震化整備プログラム」に基づき、32年度末で耐震化率100%を目標に、都営住宅の耐震化を進めていきます。

##### ○ 計画的な改修・修繕によるコストの抑制

###### ◇ 外壁塗装・補修（19億円）

- ・ 定期的な外壁塗装などを行うことにより、建物の長期有効利用を図ります。

#### ④ 都立看護専門学校

- 都立看護専門学校（全7校、平成23年度定員1,680名）は、高い看護師試験合格率（23年度99%）を誇り、毎年500名程度の看護師を輩出しています。

#### 《 平成23年度財務諸表 》

##### 貸借対照表

<b>資 産</b> 129.3 億円	<b>負 債</b> 40.9 億円
うち固定資産 129.3 億円 〔うち土地 70.3 億円〕 〔うち建物 58.5 億円〕	都債 25.3 億円 退職給与引当金 15.6 億円
	<b>正味財産</b> 88.4 億円

##### 行政コスト計算書

行政収支の部
<b>行政収入</b> 3.9 億円 〔うち使用料及手数料 3.8 億円〕
<b>行政費用</b> 28.5 億円 〔うち人件費 21.0 億円〕 〔うち物件費 5.4 億円〕 〔うち減価償却費 2.0 億円〕

- ・ 建物の減価償却による資産価値の減少などに伴い、総資産が平成22年度に比べて4.6億円減少しています。

#### 《 財務諸表から読み取れる課題 》

##### 資産分析 老朽化への対応

- ・ 7校平均の建物老朽化率は48.3%で、都の建物平均（43.2%）をやや上回っています。昭和40年代に建築された4校のうち、2校については現在改築工事が行われていますが、残る2校についても計画的な改築・改修が必要です。

##### 単位当たり分析 適正な収入の確保

- ・ 平成23年度における学生（定員）一人当たりの収入は23.1万円、行政費用に占める行政収入の割合は13.7%でした。今後は、質の高い教育を維持しながら、更なる学校運営の効率化にも取り組んでいく必要があります。

#### 《 平成25年度予算における課題への対応 》

##### ○ 教育環境の整備

- ◇ 広尾看護専門学校の改築、北多摩看護専門学校の大規模改修（0.4億円）
- ・ 平成25年度は、建築後40年以上が経過した広尾看護専門学校の改築工事や24年度から定員増となった北多摩看護専門学校の改修工事に着手します。

##### ○ 受益者負担の適正化

- ◇ 授業料等の見直し（〔歳入〕4.5億円）
- ・ 平成25年度入学生から授業料などを見直して、収支比率の改善を図ります。